**おせっかいさせてください！**

**B 親切、思いやり　小学校 中・高学年、中学校**

|  |  |
| --- | --- |
| **ねらい** | 「おせっかいさせてください！」という言葉から、周りの人を元気にさせる「おせっかい」もあることに気づき、そのような「おせっかい」をしてみたいという意欲を高める。 |
| **資料提示の**  **工夫** | 授業開始と同時に、「おせっかい」の言葉を隠して提示する。子どもたちにどんな言葉が入るか予想させてから、「おせっかい」（出しゃばって世話をやくこと）だと知らせる。 |

文字の書かれた紙

中程度の精度で自動的に生成された説明

|  |  |
| --- | --- |
| **思考を促す**  **発問** | 発問１　「おせっかい」（出しゃばって世話をやくこと）は、身近な人を元気にさせるのでしょうか。  　　　　　※笑顔の女性の印象から、元気にさせてもらえそうと考える子どもが出てくるだろう。そこでコミュニティナースについて説明する（コミュニティナースとは、資格や職業ではなく、“暮らしの中で誰もができる世話を行う人”のこと）。「あのね」「そうなんだね」となにげない会話をすることもその一つであることを示して、自分にもできそうだなと感じさせる。  発問２　コミュニティナースがそばにいたとしたら、どんな「おせっかい」をしてもらうと元気になりそうですか。  発問３　どんな人に、元気が出る「おせっかい」をしたいですか。 |
| **ポイント** | ６月・10月に取り組むことがおすすめ。子どもたちが学級の雰囲気に慣れ、学級として親切や思いやりをさらに一歩進めたいときに、元気にさせる「おせっかい」を理解することで、元気にさせる「おせっかい」をしてみたいという意識を高めることができる。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 出典：  クレジット： | Community Nurse Company　ホームページより  一般社団法人コミュニティナースラボラトリー  ※一般社団法人コミュニティナースラボラトリーでは、「ナーシング：看護」自体が専門職のものではなく暮らしの中のケアであり、誰もがコミュニティナーシングを担える存在と考え、そのアクションを広げていく活動を行っている。 |